

みんなのた場



雄勝町伊達の黒船太鼓保存会

震災支援に感謝 絆を今も
努力で作る勇壮な音色

平成3年に、旧雄勝町町制施行50周年の記念事業として発足した創作和太鼓の団体です。伊達の黒船は、雄勝で造船された説もある慶長遣欧使節船サン・ファン・パウティスタ号を指しています。現在は15歳から65歳まで18人が所属し、石巻を中心にさまざまなイベントで勇壮な音色を響かせています。

30年以上の活動歴を持つ団体ですが、東日本大震災で解散の危機を経験しています。震災の津波で太鼓や衣装、練習場所になっていた公民館を失いました。震災後初のステージは平成23年8月、日本初の洋式帆船造船地である静岡県伊東市の「あんじん按針祭」で迎えました。徳川家康の外交顧問であった三浦按針の功績をたたえる祭りであり、同じ洋式帆船の造船地ということから「一度で良いから太鼓を打ってくれないか。地域の方もぜひ一緒に来てほしい」と依頼が舞い込みました。

地域の復興も先行きが見えない状態ではありましたが、依頼主の熱意を受け、太鼓は同市の伊東囃子保存会から借りて出演しました。引退したメンバーも含めて2曲を奏でました。

この出演がきっかけで和太鼓の寄付など全国からさまざまな支援を受け、今の活動につながっています。黒船太鼓の畠中のだみ副会長は「伊東に行ってなかったら今はないです」と語っていました。コロナ禍では休止したものの、この縁を大切にしようとして、今年も毎年、按針祭に出演しています。

現在は月4回集まって練習しており、昨年は20回以上公演を行ってきました。披露する楽曲は短くても10分ほど。腰を低く落とし、背筋を伸ばす姿勢を保ちながら太鼓を打つため、体力が必要であり、練習以外でもそれぞれトレーニングをしています。

阿部貴之会長は「震災を経て多くの支えでここまでやって来られています。ありがたいことに、コロナ禍前の出演回数に戻りつつあります。いつも良い演奏を届けられるよう努力したいですね」と話していました。



幅広い年代の保存会



月に4回集まり、練習しています

きらり★まきっこ 11

自信付けて強さ磨きたい

さいとう あさひ
齋藤 朝日さん(蛇田小学校6年)

父と兄に憧れ、5歳ごろに剣道を始めました。頑張った分だけうまくなれるし、そうやって努力して挑んだ試合で勝てるのが1番うれしいです。

昨年夏は、初めて全国道場少年剣道大会に出場しました。通っている道場で主将を務めており、この予選では僕が勝てば出場決定という場面を任せてもらいました。とても緊張しましたが勝ち進むことができ、自信につながっています。

最近は個人戦でもっと勝っていくことが課題です。試合の緊張で、本来の力が出せないことも少なくないからです。他の道場に通う同級生には、緊張に強く、いつも堂々としている選手がいて、毎回刺激をもらっています。もっと練習に励み、自信を付けることで強さに磨きをかけたいです。



市報いしのまき 第318号 令和7年2月1日発行
発行 石巻市総務部秘書広報課 ☎0225-95-1111 FAX23-4340
〒986-8501 宮城県石巻市穀町14-1

編集/制作 (株)石巻日日新聞社
古紙パルプ配合の再生紙と環境に優しい植物油インキを使用しています。再生紙としてリサイクルできます。「ごつがみ類」として分別してください。

住民基本台帳による石巻市の人口と世帯数(前年比)		
令和6年12月末現在	人口 世帯数	132,447人 (▲2,264) 62,480世帯 (0)